

平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」

大学教育推進プログラム(テーマA)申請中

設置形態	1. 国立	2. 公立	3. 私立
学校名	佐賀大学		
本部所在地	〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地		
設置者名	国立大学法人 佐賀大学		
学校長名	長谷川 照		

取組期間	平成21年度 ~ 23年度			
取組名称 (全角20字以内)	大規模災害対処に貢献できる人材の育成 ~ 課題探求能力の向上を目指した実践的シミュレーション教育 ~			
取組学部等	医学部看護学科			
事項	1. 体系的な教育課程	2. 幅広い学びの保証	3. 課題探求能力	4. 学習時間
	5. 授業計画の明確化	6. 授業時間の確保	7. キャップ制	8. 双方向型学習
	9. TA	10. SA	11. 少人数指導	12. 情報通信技術の活用
	13. 成績評価基準	14. GPA	15. 多面的な評価	16. 初年次教育
	17. 高大連携	18. FD	19. SD	20. その他

ふりがな	しんち こういち	所属部署名	医学部看護学科
取組担当者	新地 浩一	及び職名	地域・国際保健看護学講座 教授
勤務地	〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5丁目1番1号		
e-mailアドレス	shinchik@cc.saga-u.ac.jp		

ふりがな	まつお さとし	所属部署名	学務部教務課教務課長
事務担当者	松尾 訓	及び職名	
勤務地	〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地		
e-mailアドレス	kyomu-so@mail.admin.saga-u.ac.jp		

取組の概要

1 背景と課題

大規模な災害時における救援医療等の対処に貢献できる人材の育成は極めて重要な課題である。しかしながら、多くの看護系大学において、災害医療や災害看護に関する有効な教育方法については、まだ手探りの状態である。佐賀大学医学部では、平成15年6月に看護学科に国際保健看護学分野を新設し、国際医療協力や災害医療の現場において活躍する人材の育成に取り組んできている。本学看護学科では、課題探求能力の向上を目指す学習（大規模災害等のシナリオを用いた学習課題をグループ学習により探求し、効果的な災害対処の方法等を修得する。）を導入し、国際保健看護学の教育において実施しており、本学の看護教育では、災害対処に貢献できる人材育成の観点で成果を上げつつある。しかし一方では、災害看護に関する統合的なカリキュラムを整備していく必要があるとともに、より効果的な課題探求型の教育方法の開発が課題となってきた。

2 取組の内容

本取組では、上記の課題を踏まえ、「課題探求能力の向上を目指す学習」を基盤とした実践的シミュレーション教育を確立し、「効果的な課題探求型の教育方法の開発」を目指すものである。その骨子は、以下のとおりである。

(1) 実践的な災害対処の教育（基礎教育・技能訓練・実践的災害シミュレーション）の段階的・継続的な実施

- ・「国際保健看護論」及び「災害看護論」の導入による国際医療協力や災害看護の分野における基礎教育（知識・技術と問題解決能力の向上）
- ・災害時のシミュレーションを用いた実践的教育（課題探求能力の涵養）
- ・「総合的な実習（災害看護・国際看護コース）」での救急患者のヘリコプター移送研修（実践的な災害対処教育）
- ・災害派遣医療チーム（DMAT）への参加による技能訓練（実践的演習：DMAT研修）

(2) 課題探求能力の向上を目指す学習の推進

- ・災害時を想定した実践的シミュレーション教育を用いた情報収集から実際の現場での活動、撤収に至るまでの課題の探求を基礎とした学習
- ・課題に当事者意識をもって関わるプロフェッショナルリズムを育む学習（自己管理能力とチームワーク、倫理観、社会的責任を自覚する態度の修得）

(3) 学習環境・指導体制の整備

- ・専任教員（災害医療の経験豊富な教授）、特別研究員による系統的な指導体制
- ・少人数指導による実践的教育とティーチング・アシスタント活用による双方向型学習の実施
- ・FDによる教員の教育力の向上の研鑽と明確な成績評価基準の提示
- ・「災害教育評価委員会」による多面的な評価と自己点検・評価による継続的な改善

3 期待される効果

本取組は、知識の修得に帰結しがちである従来の教育方法を、災害シミュレーションを含む実践的な教育により、「課題探求能力を向上させ、実践的災害対処能力の養成へと実質化するモデル」であり、この実質化により大規模災害（国際緊急援助活動を含む。）において貢献できる知識・技能に裏付けられた「危機管理対応能力」に優れた医療職者を育成することができる。また、本取組（シミュレーション教育）の他分野への展開により、判断力・解決能力のある人材育成システムの構築に資することができる。

取組の全体スケジュール

科目名等	単位時間	21年度	22年度	23年度	24年度
A. 国際保健看護論 (4年次) (災害時対処のシミュレーション教育)	必修 15時間	教育内容 の充実	→		
B. 災害看護論 (4年次)	選択 15時間		開講 準備	開講	→
C. 総合的な実習 (4年次)	必修(コースは選択) 90時間	カリキュラムの充実と実施			
D. DMAT研修 (実践的な災害医療研修) (1~4年次)	課外授業 12時間	研修内容 の充実	実施	→	
災害教育評価委員会 (学外の専門家を含む)		設置 準備	評価	評価	評価

資料 : 地域・国際保健看護学講座および国際保健看護学分野について
概要、組織体制、活動報告を、佐賀大学医学部ホームページに掲載。

- 医学部トップページ【医学部の活動】 [教育改革プログラム](http://www.med.saga-u.ac.jp/viewnews.php?newsid=275)
(URL:http://www.med.saga-u.ac.jp/viewnews.php?newsid=275)
- 医学部トップページ【医学部】 看護学科 [国際保健看護学分野](http://www.med.saga-u.ac.jp/viewsoc.php?socid=czAwMDEwMDA2NQ==)
(URL:http://www.med.saga-u.ac.jp/viewsoc.php?socid=czAwMDEwMDA2NQ==)

資料 : 医学教育に関する活動について

- 新地浩一．特集：災害医療に役立つ医療人になるために ～海外医療支援最前線～国際緊急医療援助活動について .別冊ERマガジン5(2)，327-330，2008
- 新地浩一．国際災害看護ワークショップ（高雄医科大学等，台湾．2008年8月4～10日）に講師として招聘
- 新地浩一、瀧健治、奥村徹．佐賀大学DMAT研修（第1回～第4回）2006～2008（佐賀医学部および付属病院にて開催）で、ワーキンググループディレクターを務めると同時に、佐賀大学学生および大学院生をDMATチーム要員として教育．
- 新地浩一．JICA農村医学研修ワークショップ（佐賀大学，2008年10月29日）で、アジア、アフリカ諸国の保健医療担当者に対して「International Disaster Relief Operation of Japan」について講演、カリキュラム作成演習指導．
- 新地浩一．NPO法人・国際緊急医療・衛生支援機構（IEMS-Japan）新春講演会（東京．2008年1月26日）で、「国際緊急援助活動における救援医療スタッフのメンタルストレスケア」について講演
- 新地浩一．平成20年度「来てみんなしゃい！佐賀大学」企画公開シンポジウ

ム：「国際保健医療協力を教育に生かす」を主催。「佐賀大学における実践的な国際保健・国際看護の教育」について講演

- S. Kodama, K. Shinchi, M. Furukawa, et al. Simulation exercise for international disaster relief operations for nurse students. *Journal of International Health* 22(4), 198-9. 2007
- M. Furukawa, K. Shinchi, Y. Fukuyama, et al. The role of nurses in international disaster relief operations: survey among Japanese doctors and nurses. *Journal of International Health* 22(4), 199. 2007

資料：参考文献

1. 新地浩一，山下友子，山川裕子，他．看護大学生に対する国際緊急医療援助活動の実践的教育とその評価～インド洋津波災害をモデルにしたシミュレーション実習による教育について～ 日本集団災害医学会誌 10(3)，293-301，2006．
2. 前川昭子，新地浩一．スマトラ島沖地震および津波災害をモデルにしたシミュレーション演習 看護展望 31(8)，46-49，2006．
3. 古川真三子，新地浩一，福山由美，他．国際緊急援助活動における看護師の役割 日本集団災害医学会誌 12(2)，152-159，2008．
4. 国際緊急援助活動に貢献する医療人育成GP：国際緊急援助活動に関する研究報告書．(2007年) (代表者 新地浩一)
5. 国際緊急援助活動に貢献する医療人育成プログラム：国際緊急援助活動に関する研究報告書(2)．(2008年) (代表者 新地浩一)
6. 国内および国際的な大規模災害における災害時対処に貢献する人材育成プログラム：国際緊急援助活動に関する研究報告書(3)．(2009年)(代表者 新地浩一)
7. 佐賀大学医学部教育のあり方ワーキンググループ最終報告(2006年)．佐賀大学医学部ホームページ．
URL: http://www.med.saga-u.ac.jp/admdir/editor_img/File/910-04wg.pdf
8. PBL改革ワーキンググループ最終報告書(2005年)．佐賀大学医学部ホームページ．
URL: http://www.med.saga-u.ac.jp/admdir/editor_img/File/PBL-kaikaku-002.pdf
9. K. Shinchi: International Disaster Relief Operation of Japan. In *Textbook of Agricultural Medicine and Rural Health* (JICA) p181-184, 2008.
10. K. Shinchi, H. Ashida. Proposal of a model for medical records for international disaster relief operations. *Military Medicine*, 168(2), 120-123, 2003.
12. 北川慶子、宮本英揮「佐賀県の地方都市における高齢者の防災意識と土砂災害リスクの啓発」老年社会科学vol.31-1 2009
13. 宮本英揮、北川慶子、甲本達也「佐賀県の過疎化・高齢化の進捗状況とその地理的特性」農業農村工学会論文集 2009

資料 :

図 2 . 本取組における PDCA サイクルの概要

